

保育の質の向上研修ニュース

発行日 平成26年10月30日
発行者 舞鶴市（子ども未来室）

～保幼小連携 特集～

8月4日 舞鶴市小学校教育研究会 生活科部夏季研究会
保幼小連携研修会 を実施しました。

参加保育園

岡田保育園
タンポポハウス
平保育園
なかすじ保育園
東山保育園
八雲保育園
相愛保育園

中保育所
東保育所
東乳児保育所
南乳児保育所

<公開保育の概要>

小学校教育研究会生活科部と保育園・幼稚園と合同の研修会も3年目を迎えました。この研修会は、小学校の生活科担当の先生や保育園・幼稚園の先生が一堂に会する貴重な研修の場でもあり、12小学校、11保育園、5幼稚園から約60名の参加がありました。今回も鳴門教育大学大学院教授木下光二先生をお迎えし、ご指導いただきました。

また、今回の研修では、小学校の先生から、保育園・幼稚園の様子が見たいという声上がり、午後からの研修の前（午前）に見学を実施することになりました。シオン幼稚園、中保育所の2か園を見学していただき、幼児が園でどんな生活をし、どんな遊びを楽しんでいるのか？実際に見ていただくことができました。見学の前には、短時間ではありましたが、木下先生より「幼児教育とは何か？保育を見るときのポイント」を解説していただき、事前学習することもできました。

今回をきっかけに、このような機会を小学校単位で実施できると、より連携が深まるように感じます。木下先生からも、大変良い機会であり、ぜひ続けてほしいという言葉をいただきました。

幼児期の教育＝遊び込み 児童期の教育＝学び込み
夢中になって遊び込む力が学び込む力につながる

～木下先生 幼児教育とは？保育を見るときのポイントより～

保育を見るときのポイント

遊びを見るときのポイント

空間

どうしてそこにいるのか？

そこにいる意味、訳がある

時間

いつからそこにいるのか？

そこに馴染んでいるか

行為

なぜ、それをしているのか？

理由がある

共存

だれとそこにいるのか？

人との関係性

子どもの思いや気持ちが見えるかどうか？
「なぜ」「どうして」という視点を持って、いつも考える

<遊びの環境>

◎園庭…木々や草花などの自然、遊具、坂やでこぼこ、築山が大事。

◎園庭のどこに子どもが集まっているか？端に集まっている方が遊び込んでいる。

◎教室…掲示物がみんな同じ作品ではなく、そのらしさが出ているか？が大事。文字情報が少ないことも大事。

<子ども～遊び込んでいるか？夢中になっているか？>

◎遊んでいるのか？遊ばされているか？をどう判断するか？

・子ども自身が、遊具や道具、木々や草花、人へに働きかけているか？

・活動が終わっても、「もっとやりたい」「やってよかった」の言葉が出るか？

◎自主性、主体性、自動性（自ら動く）が大事。



木下先生 講演「遊びの中の学び、生活科の学び」とグループワーク

午後からは、木下先生に「遊びの中の学び、生活科の学び」と題してご講演いただき、グループに分かれて実際の「連携活動のプラン」を作っていただきました。講演の中では、鳴門教育大学付属幼稚園の「ペットボトルいかにプロジェクト」のビデオも見ていただき、連携活動のイメージを持ちながら、実際にどんな活動に取り組みたいか、時間や詳しい内容を検討することができました。グループは小学校区を基本としており、連携の実際をイメージし、共有する良い機会となりました。この中から、実際の連携活動が実施されることを期待しています。



量から質への転換 ～保育の質、生活科(教育)の質、連携の質～

<幼児期の教育>

◎対象と十分に関わり、夢中になり、自己発揮できる子どもが、小学校以降の教育で学び込める。

◎幼児期には、「のびのび」と「きちんと」の両立は困難である。

◎共同的な遊び：楽しい所に子どもは集まる。

◎ある幼稚園での色水遊び。先生が用意した作られた環境でしか遊んでいなかった。園庭の草や花など自ら取りに行く子は一人もいなかった。何十年と保育していると、子ども主体になっていないことに気付かないこともある。

◎保幼小がお互い第三者として見合い、違いを認め合うことが大事。

◎量から質への転換～保育の質、生活科

(教育)の質、連携の質をあげていく～

<児童期の教育>

◎どのように育ってきたのかを知らない教育できない。

◎1,2年生で理科、社会を無くし生活科が導入されて20年。二つの教科をつなげることは当時難しかった。今は、当たり前になっている。

◎一定の研究はされてきているが、改めて、生活科になった経緯や意義を確認する必要がある。

◎生活科の質が問われるようになってきている。

<連携活動>

◎1年生：お世話をしなさいと…

年長：自信と誇りを持っている。楽しくて

両方が夢中になれる活動を選ぶ。お世話をしなさいという意識は必要ない。

◎教師主導が少ない互恵的な活動が大事。

◎年間に3つ交流活動ができればよい!

◎大人が楽しくないと、子どもも楽しめない。

◎幼児と上手に関わる子は教科書と上手に関わる!! (相手の気持ちを考えることができる＝国語、算数の文書問題の力になる)

◎年長児に対し「優しくしなさい」「親切にしなさい」は絶対に言わない。しかし、親切にしている子を大いに褒めることが大事。

◎お互い普段とは違う姿を発見することができる。

グループワーク「秋～冬にかけての連携活動のプランニングをしよう」

グループワークでは、いろいろな楽しいプランができあがったので、その中のひとつを紹介します。皆さん、楽しんでプランづくりをされており、まさに大人も子どもも楽しむことが大事であることを実感していただきました。

①時期 9月

②年齢 年長(4歳児も) ← みそづくり

1年生 ← あずき

2年生 ← さつまいも

③場所 体育館

④ねらい 【幼児】 いろいろな味のだんごを工夫してつくる

【児童】 それぞれの素材の特徴を考えて、協力して楽しく食べよう!

⑤必要なもの あずき、ぎんなん、椎の実、くり、すすき大豆(きな粉)…

⑥流れ

・お月見の環境づくり ・お月見の行事

◎大森神社で出会う子どもたち。どんなだんごが食べたい?自分たちで決める。

◎分量、かたさを自分たちで考えて、話し合う。

(失敗しながら、ちょうどいいだんごに…)

◎まわりが気になる頃に紹介し合う。

だんごdeおみせやさん

※子どもから、「他のだんごも食べたい」「お店やさんしたい」～したいを大切に。

⑦事前・事後の流れ

◎事前に、4月に植えるものを決める。(田、畑)→もち米、小豆、大豆。それぞれのところで同時進行。

◎どろだんご作り(手の感触、感覚遊び)～年長が毎年している活動のところに1年生も加わる。

◎散歩で畑の世話をする。

◎5,6月それぞれの栽培物の成長の気づきを報告し、交流する。

◎8,9月お月見について知る。

◎秋見つけ、散歩で交流。

◎だんごづくり

◎お店やさんごっこ

※今年の反省を踏まえて、来年度どんなだんごを作りたいか考え、栽培するものを決める。

6月30日 実践研修 岡田・八雲保育園の年長児交流を実施!木下先生に指導を受けました。

岡田、八雲両保育園での合同研修を実施し、木下先生のご指導を受けられました。午前には、岡田保育園において年長児同士の交流活動が実施されました。

年長同士の交流活動をされるまでには、園の枠を超えて互いの保育を見合

い、認め合うという連携活動にも通じる営みがあったようです。

午後にはその日の保育を振り返るとともに、「子ども主体の保育」について大いに議論されました。

木下先生の熱いご指導もあり、保育士が遊びのイメージを持ち、モデルとなり、子

どもが遊び込めるようになってきたら、見守っていくこと。子どもの行動や言葉には意味があり、どうとらえ、関わるかていねいに遊びを見ることなど…多くのことを学ぶ機会となり大変有意義な研修会となりました。